

# 中国人日本語学習者における「ら抜き言葉」の使用に関する研究

王 怡韓

## 1. はじめに

「これ、拡大したら見れるよ」と電車の中である 20 代男性がスマートフォンを片手に隣の人と話している。このように本来 possible の助動詞「ラレル」が接続する一段動詞とカ変動詞に「レル」を接続させ、発生した表現が「ら抜き言葉」と呼ばれる。「ら抜き言葉」は現代日本語の乱れの代表例として問題にされている（中條 2000）。その具体的な発生時期は明らかではないが、松下大三郎の『標準日本文法』（1924 年）での言及が早いものとされている。

昭和 54 年に行われた NHK 「ことばに関する意識調査」では、「ら抜き言葉」が「変だ」と「変でない」と答えた人数がほぼ拮抗している。中でも「変だ」と答えた人は高学歴、高年齢層の人が多く、それに対して、平成 3 年度に行われた「国語に関する世論調査」では「ら抜き言葉」が「気にならない」という答えが「気になる」を 18% も超え、若い世代での使用が目立っている。また平成 22 年度の結果を平成 17 年度のもの比べて見ると「食べれない」と「来れない」の選択率がそれぞれ 9%・8% と増加し、若い世代での「ら抜き言葉」の使用が進行していることが伺える。

「ら抜き言葉」は現代日本語の言葉の乱れの象徴的存在と言われ、さまざまな面から検討されてきた。その発生要因にはいくつかあるとされている。日常生活でよく耳にする表現であるが、公的な場面では使用が控えられているようである。

## 2. 先行研究と本研究の目的

### 2.1 「ら抜き言葉」の発生

神田 (1964) では、「ら抜き言葉」発生の可能性について、主に次の三点を挙げている。(1) possible の助動詞「られる」の「ら」が省略されたもの。(2) 五段活用とサ変動詞の未然形「さ」に付ける「れる」がそれ以外の動詞にも拡張したもの。(3) 五段活用からの possible 動詞は勢力が強く、五段活用以外の動詞も possible 動詞が作れるようになったこと。これらの点からみて possible 動詞の拡張が有力な原因であると主張している。

それに対して杉山 (1993) は、「ら抜き言葉」は possible 動詞の一種であるとし、これまで五段動詞に限られていた possible 動詞が他の段の動詞にも派生してきたと主張している。また、「ら抜き言葉」は直接「ら」が抜けているわけではないとも述べている。

松田 (2012) は、「possible 動詞」が五段動詞語幹に possible 接辞-e が付いて語幹化したもので、「ら抜き言葉」は五段動詞 possible 形接辞が一段動詞に転用される現象だが、大局的にはラ行五段化の一部として考えられると述べ、そこにはまた意味的なメカニズムも関わっていると指摘している。

### 2.2 「ら抜き言葉」の使用に影響する要因

言語の内的要因と外的要因についての調査に辛 (2003) がある。言語内的要因とし

て動詞の語幹音節数と相関関係があり、動詞の活用の種類に関して上一段動詞の方が下一段動詞より「ら抜き」が進んでいるという結果を示している。また、外的要因に関しては「ら抜き言葉」の使用は公的な場や目上の人との会話など、改まった場合で控えるように注意している姿が伺える。

井上（1998）では、音節数が「ら抜き言葉」の使用率にとって一番大きな要因であると述べている。岡崎（1980）は、1979年に東京都内に住む中・高校生411名を対象に言語使用状況を調査した結果、動詞語幹の音節数が「ら抜き言葉」の使用率に影響し、語幹が1音節の時に「ら抜き言葉」になりやすいと述べている。その中で上一段活用動詞の語が優勢で、動詞の活用の種類からも影響されると述べている。

加藤（1988）は1987年に首都圏在住の大学生230名を対象に「ら抜き言葉」の使用傾向及び語彙による使用率の差異を調査した結果、岡崎（1980）と同じように、語幹の音節数と活用の種類に深い関係があると指摘した。しかし、音節数は重要な要因である一方、絶対的要因ではないと指摘している。

田中（1983）は、国立国語研究所の調査データを分析した結果、語幹が1音節で短いものは「ら抜き言葉」になりやすく、語幹が2音節の語彙（食べれる）はむしろ長い語形のほう（食べられる）が使用されていると述べている。

Matsuda（1993）は、東京語話者を対象に200時間のインタビューを実施し、自然談話資料を分析した。結果語幹音節の長さは「ら抜き言葉」の使用率と強い反比例関係を表した。「ら抜き」現象が語幹3音節以下の動詞だけに現れ、上一段動詞が下一段動詞より使用率が高いと指摘した。

また、木下（1995）は、漫画とテレビ番組の資料に基づいた統計の結果、終止形2音節の動詞が最も可能動詞化しやすくと述べている。その後の調査（木下1997, 1998）では、新出語の中で音節の短い語の数が少なく、1996年のテレビ番組に関する調査では語幹1音節の動詞がなかったことから「ら抜き」は語幹が1音節の動詞ほぼすべてにおいて進行したと主張している。

### 2.3 本研究の目的

日本語母語話者を対象とする数多くの先行研究から、「ら抜き言葉」の使用率が語幹音節数と活用の種類と関係があることが分かった。また、井上（1998）などの先行研究では「ら抜き」になる言葉は日常でよく使われる動詞に多いという指摘がある。

これまで日本語母語話者の「ら抜き言葉」の使用に関して、アンケート調査や自然談話、コーパスなどさまざまな角度から検討されてきた。しかし、日本語を学んでいる外国人学習者たちの使用実態が依然判明していない。本稿は、中国人日本語学習者における「ら抜き言葉」の使用実態を語幹音節数・動詞活用の種類・語彙の使用率の三つの面から検討することを目的とする。

### 3. 調査

#### 3.1 調査問題作成

本研究は、アンケートを通じて中国人学習者の「ら抜き言葉」の使用と日本語母語話者の使用を対照的に研究し、その相違について明らかにする。

アンケートは複数回答が可能な三択問題であり、三つの選択肢 (①「(ラ) レル」・②「ら抜き言葉」・③「コトガデキル」) の中から普段使う表現を選択してもらう形式である。

例：「この辺で中国の映画はこの映画館でしか\_\_\_\_\_。

①見られない ②見れない ③見ることができない

岡崎 (1980)、加藤 (1988)、田中 (1983) などの先行研究で指摘されているように、動詞に「ら抜き」発生の傾向は動詞の音節数と活用の種類に関係がある。よって、本稿の調査では、音節数及び活用の種類別に動詞 20 語を調査項目として選択した。なお、語彙の選択は岡崎 (1980) で提示している内容を参照する (表 3.1 を参照)。

表 3.1 調査語彙の分類

活用の種類	語幹音節数	調査語彙
上二段 動詞	1 音節	見る・煮る・射る・着る
	2 音節	起きる・生きる・借りる・降りる
	3 音節	信じる
下二段 動詞	1 音節	出る・寝る
	2 音節	受ける・食べる・乗せる・逃げる
	3 音節	覚える・伝える・忘れる
	4 音節	考える
カ変動詞	1 音節	来る

#### 3.2 調査期間及び対象

調査は 2010 年 9 月に行い、調査対象者は首都圏出身日本語母語話者 (以下 JN) 78 名、日本国内大学及び大学院に在籍する学習者 (以下 CU) 52 名<sup>1</sup>、日本語学校に在籍する学習者 (以下 CJ) 50 名<sup>2</sup>と中国国内の大学日本語学科に在籍する大学 3、4 年生 (以下 CN) 37 名である。学習者が全員日本語能力試験 1 級合格者である。

#### 3.3 調査結果及び分析

##### 3.3.1 各グループの調査結果

「ら抜き言葉」の使用傾向を見た結果、全体的に母語話者の使用率が学習者より高

<sup>1</sup> CUのうち滞日期間3年未満17人、3～6年23人、6年以上12人である。

<sup>2</sup> CJのうち滞日期間1年未満46人、1～2年4人である。

い。一方、個別の語彙に関して、学習者のほうが母語話者の使用率を上回る場合もあることが明らかになった。学習者グループのうち、CUの使用率が一番母語話者に近く、他の学習者グループと差がある。また、四つの被験者グループのうち、CJ以外に使用率0%の項目があることが明らかになった。CJは全ての語彙に関して「ら抜き言葉」の使用が見られた。

表 3.3-1 JN の使用率順位

JN			
調査語彙	使用率%	活用・音節数	
1グループ	射る	58	上・1
	着る	50	上・1
	煮る	48	上・1
	来る	42	カ変・1
	降りる	40	上・2
	見る	36	上・1
	起きる	34	上・2
	食べる	30	下・2
	寝る	30	下・1
	出る	26	下・1
2グループ	借りる	26	上・2
	受ける	16	下・2
	生きる	14	上・2
	逃げる	14	下・2
	乗せる	12	下・2
3グループ	覚える	6	下・3
	考える	3	下・4
	信じる	0	上・3
	伝える	0	下・3
	忘れる	0	下・3

表 3.3-2 CU の使用率順位

CU			
調査語彙	使用率%	活用・音節数	
1グループ	煮る	46	上・1
	寝る	46	下・1
	着る	44	上・1
	来る	42	カ変・1
	見る	40	上・1
	食べる	40	下・2
	射る	38	上・1
	降りる	38	上・2
	出る	36	下・1
	起きる	34	上・2
2グループ	借りる	22	上・2
	生きる	20	上・2
	乗せる	20	下・2
	受ける	16	下・2
	逃げる	14	下・2
3グループ	伝える	12	下・3
	覚える	10	下・3
	忘れる	8	下・3
	信じる	0	上・3
	考える	0	下・4

調査結果を見やすくするために音節数による選択傾向を基準にグループ分けをする。JNの「ら抜き言葉」使用率上位三位の動詞がそれぞれ「射る」・「着る」・「煮る」で、すべて語幹1音節の上一段動詞であることが分かる。語幹音節数と活用の種類を合わせてみると全体的に「ら抜き言葉」の使用率は上・1、カ変、上・2、下・1の順に減少傾向を示している。この結果は岡崎(1980)と一致しており、30年が経過した現在でもこの傾向は変わらないようである。

JNとCUの結果を比べて見ると、個別の語彙に関して母語話者の使用率と差があることが明らかになった。CUは来日年数が長く、教科書で取り上げられていない内容を周囲からのインプットにより身につけたものと考えられる。しかし、今回の調査結果から、CUの「ら抜き言葉」の使用率が母語話者より高い項目もあり、それは音節数の多い語彙に集中している。この結果から、CUが日本語母語話者から影響を受け、「ら

抜き言葉」を使用するようになったものの、使用傾向は母語話者があまり使わない語彙にまで拡大していることが分かる。

JN と CU のグループ分けの結果を比較すると、1、2、3 グループに属する語彙の使用率に相違があるものの、同一のグループ内にあることが分かる。1 グループに位置する単語は語幹 1 音節・語幹 2 音節の単語であるのに対して、2 グループの単語は全部語幹 2 音節の単語である。3 グループに位置する単語は語幹 3 音節・語幹 4 音節の単語で、調査語彙の中で音節数が一番長い。CU の「ら抜き言葉」の使用が周囲の日本語母語話者から影響される一方、音節数と「ら抜き言葉」の使用となんらかの相関関係があるという感覚を持っているかもしれないと考えられる。

表 3.3-3 CJ の使用率順位

CJ		
調査語彙	使用率%	活用・音節数
射る	36	上・1
寝る	30	下・1
着る	28	上・1
煮る	22	上・1
食べる	22	下・2
借りる	22	上・2
乗せる	22	下・2
降りる	22	上・2
起きる	18	上・2
出る	16	下・1
見る	14	上・1
逃げる	14	下・2
生きる	12	上・2
覚える	12	下・3
伝える	12	下・3
来る	10	カ変・1
受ける	8	下・2
考える	8	下・4
信じる	6	上・3
忘れる	6	下・3

1グループ: 射る, 寝る, 着る, 煮る  
 2グループ: 食べる, 借りる, 乗せる, 降りる, 起きる, 出る, 見る, 逃げる, 生きる  
 3グループ: 覚える, 伝える, 来る, 受ける, 考える, 信じる, 忘れる

新1グループ: 射る, 寝る, 着る, 煮る  
 新2グループ: 食べる, 借りる, 乗せる, 降りる, 起きる, 出る, 見る, 逃げる, 生きる  
 新3グループ: 覚える, 伝える, 来る, 受ける, 考える, 信じる, 忘れる

表 3.3-4 CN の使用率順位

CN		
調査語彙	使用率%	活用・音節数
射る	32	上・1
着る	30	上・1
寝る	19	下・1
出る	18	下・1
起きる	16	上・2
煮る	14	上・1
食べる	14	下・2
来る	14	カ変・1
信じる	6	上・3
降りる	6	上・2
考える	6	下・4
見る	5	上・1
受ける	2	下・2
逃げる	2	下・2
伝える	2	下・3
生きる	0	上・2
借りる	0	上・2
乗せる	0	下・2
覚える	0	下・3
忘れる	0	下・3

1グループ: 射る, 着る, 寝る, 出る, 起きる, 煮る, 食べる, 来る  
 2グループ: 信じる, 降りる, 考える, 見る, 受ける, 逃げる, 伝える  
 3グループ: 生きる, 借りる, 乗せる, 覚える, 忘れる

新1グループ: 射る, 着る, 寝る, 出る, 起きる, 煮る, 食べる, 来る  
 新2グループ: 信じる, 降りる, 考える, 見る, 受ける, 逃げる, 伝える  
 新3グループ: 生きる, 借りる, 乗せる, 覚える, 忘れる

しかし、同じ学習者グループに属するCJ、CN と CU の間に使用傾向に大きな差がある。CU と同じようにグループ分けした結果、各語彙の「ら抜き言葉」使用率の順番は大きく変わることが分かる。CJ と CN の「ら抜き言葉」の使用率が活用の種類及び音節数から受ける影響はCUほど大きくないことが伺える。

そこで音節数によって新たにグループ分けした結果、CJ と CN との間に大きな差があることが分かった。CJ の結果を見るとまだ一定の傾向があるものの、CN では語幹 1

音節語が上位に位置するにもかかわらず、2音節語の使用率が低く、新1グループの語彙の使用率は新2グループの約2倍である。また、使用率0%の五つの語彙のうち、語幹2音節語が三語であることが分かる。CN全体の使用率から分かるように、「ら抜き言葉」の使用率10%以上の語が8語のみで、かなり少ない。

母語話者JNと比べ、三つの学習者グループは共に「ら抜き言葉」を使用していることが明らかになった。次に、学習者の「ら抜き言葉」の使用に影響する要因は母語話者と同様かどうかを分析する。

### 3.3.2 音節数と「ら抜き言葉」使用傾向の関係

表 3.3-5 音節数別分散分析の結果

音節数	グループ	平均	標準偏差	F値	有意確率	音節数	グループ	平均	標準偏差	F値	有意確率
		値						値			
1音節	JN	28.59	20.872	8.818	.000	2音節	JN	9.23	12.196	4.815	.003
	CU	28.08	21.787				CU	9.71	10.683		
	CJ	16.20	18.282				CJ	7.10	10.502		
	CN	12.16	16.522				CN	2.03	5.063		

語幹音節数が1音節の場合、四つのグループの関係性を証明するために、独立性の検定 ( $\chi^2$  検定) を行った。その結果、検定統計量の実現値  $\chi^2=46.541$ 、 $P$ 値が0.001となり、有意水準0.01よりも小さいので、四つのグループは独立し、グループ間に有意差が見られた。さらに、グループ間の有意差の関係性を調べるために、アンケートの回答における「ら抜き言葉」を選択した場合に10点を与え、一元配置分散分析を行った。その結果、 $F(3, 213)=8.818$ であり、有意水準1%でグループによる主効果が認められた。多重比較の結果、JNはCJ、CNとの間に有意差が見られ、同じ学習者であるCUは他の二つの学習者グループCJ、CNとの間に有意差が見られた。また、JNとCU、CJとCNの間に有意差が見られなかった。そのため、語幹1音節の場合、JNとCU、CJとCNそれぞれの間に「ら抜き言葉」の使用傾向が類似していることが分った。

また、語幹2音節語の場合、 $\chi^2=37.035$ 、 $P$ 値が0.043となる。一元配置分散分析を行った結果、 $F(3, 213)=4.815$ であり、有意水準1%でグループによる主効果が認められた。多重比較を行った結果、CNはJN、CUとの間に有意差が見られる一方、CJとの間に有意差が見られなかった。CJは他の二つのグループJN、CUとの間にも有意差



が見られなかった。従って、語幹2音節動詞の場合、CNにおける「ら抜き言葉」の使用傾向がJN、CUと異なることが分かった。滞日年数の長いCUの使用傾向が母語話者JNと類似している。一方、滞日年数の短いCJがどのグループとの間にも有意差が見られなかったことから、CJが「過渡的段階」であり、CUのように滞日期間が長くなるにつれ、使用傾向が母語話者に近づいていくことが考えられる。

語幹3音節語を見ると、 $\chi^2=12.919$ 、 $P$ 値が0.375となり、また、4音節語の場合、 $\chi^2$ 検定を行った結果、 $\chi^2=3.153$ 、 $P$ 値が0.369となる。いずれもグループ間に有意差が見られなかった。本調査の被験者数と問題数が今回の結果に影響すると推測し、今後は調査対象を拡大して調査する予定である。

検定の結果、語幹音節数が1音節と2音節の場合、「ら抜き言葉」の使用と語幹音節数と関係があり、音節数の少ない語がより「ら抜き言葉」になりやすいと分かった。また、母語話者JNと同様、CUも同じ傾向を示した。CNにおける「ら抜き言葉」の使用数が一番少なかった。また、滞日期間の短いCJは「ら抜き言葉」を使用しているが、使用傾向と語幹音節数との関係に一定な傾向が見られなかった。

### 3.3.3 活用の種類と「ら抜き言葉」使用率の関係

岡崎(1980)、辛(2003)などの先行研究では「ら抜き言葉」と動詞活用の種類との関係について上二段動詞の使用率が下二段動詞より高いとされている。しかし、それらの先行研究は母語話者の使用率を調査する内容であり、外国人学習者の使用実態についての言及はない。本節では、動詞活用の種類は中国人学習者の「ら抜き言葉」の使用率に影響するかを検討したい。

三つのグループに分けたデータのうち、3グループは選択率が低いため、今回は1、2グループのみ検討対象とする。データを活用の種類ごとに分けた結果は図3.3-6～3.3-9の通りである。

図 3.3-6 活用の種類別の結果 (JN)

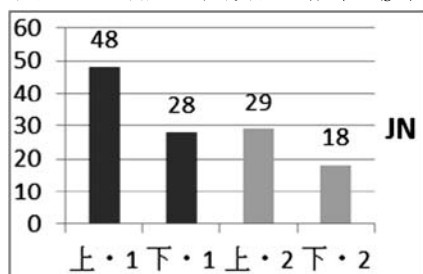


図 3.3-7 活用の種類別の結果 (CU)

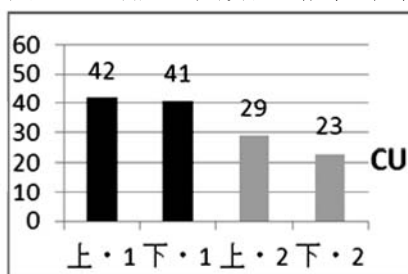


図 3.3-8 活用の種類別の結果 (CJ)

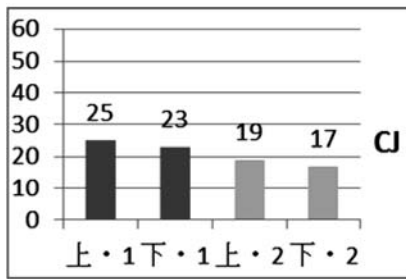
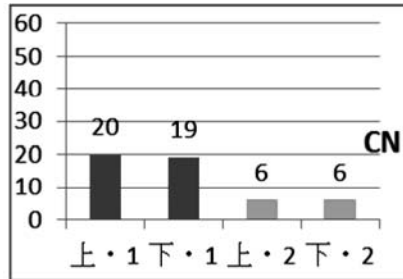


図 3.3-9 活用の種類別の結果 (CN)



(「上・1」は「上一段動詞・語幹1音節」という意味であり、動詞の種類を「活用の種類・音節数」で表示する)

図 3.3-6～3.3-9 で示しているように、JN の「ら抜き言葉」の使用率に関して、上一段語幹 1 音節の語が一番高く、同じ語幹 1 音節語の下一段動詞を大きく上回った。この結果は先行研究の指摘と一致している。また、語幹 2 音節語に関しても同じ現象が見られた。よって、母語話者の「ら抜き言葉」の使用は動詞の活用の種類と音節数両方からの影響を受けていることが明らかになった。

しかし、学習者グループの結果を見たところ、三つのグループは同じ傾向を示し、音節数が同様の場合、動詞活用の種類が「ら抜き言葉」の使用率に与える影響が大きいことが分かる。各グループの結果を見ると、語幹音節数が同様の場合、活用の種類が異なっても、「ら抜き言葉」の使用率の差は僅少である。一方、活用の種類が同様で音節数が違う場合、使用率に差があることが分かった。従って、母語話者の「ら抜き言葉」の使用率は動詞活用の種類から影響される一方、学習者に対してはその影響が小さいことが明らかになった。

### 3.3.4 語彙使用率と「ら抜き言葉」使用率の関係

今回調査に使用する動詞 20 語の「ら抜き言葉」使用率と動詞の日常生活での使用率との関係を検証するため、国立国語研究所データベース「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」<sup>3</sup>を利用する。当データベースがファッションや料理など、各ジャンルの雑誌 200 万字分の本文を対象とし、内容が生活に密着しているため、動詞の日常生活での使用率を調査するのに適切であると判断する。

表 3.3.4 と表 3.3-1～表 3.3-4 を合わせて見ると、語彙使用率上位三位の語彙「来る・見る・出る」に関して、JN と CU の場合はこれらの語彙の「ら抜き言葉」の使用率が上位にある一方、「考える」、「受ける」など語幹音節数の多い語での「ら抜き言葉」使用率は低いことが分かる。CU は日本滞在暦が長く、周りの母語話者から直接インプ

<sup>3</sup> 「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」(公開版 ver.1.0) は「現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築」という目的で国立国語研究所によって研究発表されたものであり、雑誌 70 誌を調査対象とし、現代の言葉を誌面から標本として抽出し、用語・用字に関して計量的な調査・分析を行い、最後に語彙表を作ったものである。



ットされるため、「ら抜き言葉」に接する機会もより多く、使用傾向が母語話者に類似するようになると考えられる。また、「食べる」に注目すると、下一段語幹2音節語にして、「ら抜き言葉」の使用率が上位に位置している。「ら抜き言葉」はやはりある程度語彙の使用頻度が高いほど発生しやすいと考えられる。

表 3.3.4 「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」における語彙の使用率

語彙	来 る	見 る	出 る	考 え る	食 べ る	受 け る	生 き る	忘 れ る	着 る	乗 せ る
全体 度数	1845	1670	613	607	276	232	201	144	115	99
使用 率(%)	2.50	2.26	0.83	0.82	0.37	0.31	0.27	0.20	0.16	0.13
語彙	伝 え る	起 き る	覚 え る	信 じ る	寝 る	逃 げ る	降 り る	煮 る	借 り る	射 る
全体 度数	85	79	73	63	53	52	47	45	28	5
使用 率(%)	0.11	0.10	0.10	0.09	0.07	0.07	0.06	0.06	0.04	0.01

(使用率は小数点后二桁まで表示している)

母語話者からのインプットの少ないCJとCNに関して、「来れる・見れる・出れる」の「ら抜き言葉」使用率が上位ではないことが分かる。しかし「食べる」の使用率が高く、JN、CUと同じ傾向を示している。しかし、全体から見ると語彙の使用率から受けた影響が小さいと思われる。

調査結果から、CJ、CNにとって語彙の日常生活での使用率が「ら抜き言葉」の使用に与える影響はほとんどない。JN、CUはある程度影響されているが、それほど大きくないことが分かる。そのため、語彙の使用率が「ら抜き言葉」使用の絶対的条件ではなく、語幹音節数がより重要な要因であると考えられる。

#### 4. まとめ

今回は「ら抜き言葉」の使用実態について、日本語母語話者と中国人学習者との比較を通じて分析した。その結果、日本滞在暦の長いCUの使用傾向が母語話者に類似しているものの、使用率にまだ差があることが分かった。また、来日して間もないCJと日本からの影響が少ないCNに関して、「ら抜き言葉」がある程度使われているが、

使用率がCUより低く、使用傾向も大きな差があることが明らかになった。そこで、来日年数と「ら抜き言葉」の使用率との相関をSPSS for Windows 15.0Jで調べたところ、やや相関が見られ（相関係数 0.402）、1%水準で有意（\*\* $p < .01$ ）であることが分かった。従って、滞日年数の長さも「ら抜き言葉」の使用頻度に影響することが明らかとなった。

「ら抜き言葉」の使用に影響する要因に関して、動詞語幹音節数、動詞活用の種類、語彙の使用率の三面から調べ、母語話者グループの結果を三つの中国人学習者グループの結果と比較した。

語幹音節数別に四つの被験者グループの使用率を調べたところ、音節数が「ら抜き言葉」の使用傾向に影響することが分かった。語幹1音節語に関して、学習者CUと母語話者JNが同じような高い使用率を示している。中国国内の学習者CNは日本人の日常談話から受けた影響が比較的少なく、日本国内の学習者より「ら抜き言葉」に接する機会が少ないにもかかわらず、その使用が見られた。しかし、使用率は依然としてほかの学習者グループより低い。また、CJの使用傾向がCNと類似している。

語幹2音節語になると、JN、CUはCNとの間に有意差が見られ、中国にいる学習者の「ら抜き言葉」の使用傾向が滞日年数の長いCUグループと差があることが分かった。しかし、CJは他の三つのグループとの間に有意差が見られなかったため、滞日期間1年未満のCJは「ら抜き言葉」の使用の判断に混乱があり、「過渡的段階」にあると考える。また、語幹3音節語と4音節語に関して、四つのグループの使用率が共に低く、間に有意差が見られなかった。

先行研究で指摘されているように、日本語母語話者の「ら抜き言葉」の使用傾向が動詞語幹音節数から影響される。今回の調査で学習者も語幹音節数から影響されることが明らかになった。しかし、調査規模の関係で語幹1音節と2音節の場合しか有意差が見れず、今後は調査対象を拡大して、語幹3音節と4音節の場合も検討する予定である。

母語話者の「ら抜き言葉」の使用が動詞の活用の種類からも影響されているといわれているが、今回の調査で三つの学習者グループには見られなかった。また、日常生活でよく使う動詞ほど「ら抜き言葉」の進行がより早いと言われている。今回の調査結果を見ると「食べれる」の使用率が確かに比較的の高いものの、全体的に語彙の使用率が「ら抜き言葉」の使用率にそれほど影響しないことが分かった。

よって、母語話者の「ら抜き言葉」の使用率は語幹音節数と動詞活用の種類と二つの要因から影響を受けるものの、学習者にとって語幹音節数が一番の要因であることが明らかになった。また、学習者の滞日年数が長いほど、使用傾向が日本語母語話者に近づいていくことが明らかになった。

## 5. 今後の課題

中国人学習者CU、CJとCNは教科書で記述されていない「ら抜き言葉」を使用している。日本語の言葉の乱れが学習者にまで影響していることが興味深い。

CU、CJは第二言語として日本語を使用している。周囲の日本語母語話者から影響され、「ら抜き言葉」を使用しているかもしれないが、中国国内にいる学習者における使用は一概にドラマなどに影響された結果とは考えがたい。

「レル/ラレル」が、可能・自発・尊敬・受身という四つの意味を担っていることは学習者にとって混乱しやすいのではないか。また、「読む」と「読める」のような「動詞—可能動詞」の対応関係が一部の五段動詞にしか存在しないため、誤解が生じやすい。そのため、学習者が自ら一段動詞の可能動詞、つまり「ら抜き言葉」を産出している可能性も考えられる。

中国にいる学習者も「ら抜き言葉」を使用していることから、学習段階別での学習者の「ら抜き言葉」の産出状況を調べる必要がある。

また、母語話者は目上の人との会話や、公的な場面で使用を控えているが、学習者とその切り替えができるかどうかも問題である。いかなる言語でも時と共に変化が生じる。学習者としてその変化にどのように対応したらいいかについて考えることが今後の課題である。

## 参考文献

- 浅川哲也 (2011) 『知らなかった！日本語の歴史』東京書籍
- 井上史雄 (1998) 『日本語ウォッチング』岩波新書
- 岡崎和夫 (1980) 『『見レル』『食ベレル』型の可能表現について』『言語生活』340 pp. 64-70
- 神田寿美子(1964) 「見れる・出れる—可能表現の動き—」『口語文法講座3 ゆれている文法』明治書院 pp. 81-91
- 加藤和夫 (1988) 「現代首都圏女子大学生における可能表現使用の一実態」『和洋国文研究』23 和洋女子大学国文学会 pp. 110-129
- 木下哲生 (1995) 「一段動詞およびカ変動詞の可能動詞化現象の現状—1970年以降の漫画と1993年以降のテレビ番組を資料として」『防衛大学校紀要 人文科学分冊』71 pp. 76-116
- (1997) 「1995年のテレビ番組における一段動詞およびカ行変格活用動詞の可能動詞—いわゆる『ら抜き言葉』の用例と分析」『防衛大学校紀要 人文科学分冊』74 pp. 125-152
- (1998) 「1996年に放送された番組における『ら抜き言葉』の用例と分析」『防衛大学校紀要 人文科学分冊』76 pp. 195-231
- 陣内正敬 (1994) 『『ら抜き言葉』は外国人にどのように受け入れられているか』『言語文化論究』5 pp. 105-114
- 申 鉦竣 (2001) 「近代語における可能動詞の動向」『国語と国文学』78-2 pp. 39-51
- 辛 昭静 (2002) 『『ら抜き言葉』の研究概観(第1章 文法形式と機能の習得と使用)』『言語文化と日本語教育・増刊特集号』 pp. 102-119
- (2003) 『『ら抜き言葉』の使用率に影響する言語内的要因と外的要因』『計

量国語学』24 pp. 94-108

杉山 明 (1993) 「いわゆる『ら抜き言葉』について」『津山高専紀要』32 pp. 95-100

田中章夫 (1983) 『東京語—その成立と展開—』明治書院 pp. 303-314

張 麗 (2008) 「中国の日本語教育の現場における『ら抜きことば』教育実態調査—中国人の日本語教師及び日本語学習者を対象として」『言語・地域文化研究』14 pp. 299-314

中條 修 (2000) 『言葉のゆれ』についての考察『静岡産業大学国際情報学部研究紀要』2 pp. 55-70

松田謙次郎 (2012) 「ら抜き言葉」『日本語学』31-15 pp. 66-75

Matsuda, K. (1993) Dissecting analogical leveling quantitatively :The case of innovative potential suffix in Tokyo Japanese . Language Variation and Change, 5 PP. 1-34

### 資料1 「調査用アンケート」

以下の文の下線部を、あなたの普段の言葉でどのように言いますか。

答えが複数ある場合、使うものに全部○をつけてください。

1. この辺で中国の映画はこの映画館でしか\_\_\_\_\_。  
①見られない ②見れない ③見るできない
2. 20歳未満の人はこの講座を\_\_\_\_\_。  
①受けられない ②受けれない ③受けるできない
3. 昨日は2時間しか寝てないので、朝はなかなか\_\_\_\_\_。  
①起きられない ②起きれない ③起きることができない
4. 鍋がないので\_\_\_\_\_よ。  
①煮られない ②煮れない ③煮ることができない
5. 30分も経ったけど、なかなかこの迷路から\_\_\_\_\_。  
①出られない ②出れない ③出ることができない
6. 水がないと人間は\_\_\_\_\_。  
①生きられない ②生きれない ③生きることができない
7. 四川料理は辛いから、\_\_\_\_\_よ。  
①食べられない ②食べれない ③食べるできない

8. この素晴らしい絵は小学生が描いたなんて\_\_\_\_\_。  
①信じられない ②信じれない ③信じるができない
9. 図書館カードがないと、本を\_\_\_\_\_。  
①借りられない ②借りれない ③借りることができない
10. この車は5人しか\_\_\_\_\_。  
①乗せられない ②乗せれない ③乗せるができない
11. 弓があっても、矢がないと\_\_\_\_\_よ。(射る)  
①射られない ②射れない ③射ることができない
12. 今日用事があるから、会議には\_\_\_\_\_。  
①来られない ②来れない ③来ることができない
13. 一時間だけでは、全部の内容がなかなか\_\_\_\_\_。  
①覚えられない ②覚えれない ③覚えるができない
14. この服はちょっと小さいので、もう\_\_\_\_\_。  
①着られない ②着れない ③着ることができない
15. 母が子供のことを心配して、なかなか\_\_\_\_\_。  
①寝られない ②寝れない ③寝ることができない
16. 鼠は猫に捕まえられて、\_\_\_\_\_。  
①逃げられない ②逃げれない ③逃げるができない
17. 言葉を使わないと意思はうまく\_\_\_\_\_。  
①伝えられない ②伝えれない ③伝えるができない
18. この子は自分で椅子から\_\_\_\_\_から、ちょっと手伝ってあげて。  
①降りられない ②降りれない ③降りることができない
19. 10年前の事故のことはなかなか\_\_\_\_\_。  
①忘れられない ②忘れれない ③忘れるができない

20. 女の子は5分間でハンバーガーを20個を食べるなんて、とても\_\_\_\_\_。

- ①考えられない ②考えれない ③考えることができない

#### 付記

本稿の執筆にあたり、指導教員である浅川哲也先生からたくさんのご指導をいただきました。心から感謝申し上げます。

また、ご指導とご意見をくださいました王威氏、アンケート調査にご協力くださいました日本語母語話者と中国人日本語学習者の方々に深くお礼申し上げます。

(おう いい・首都大学東京大学院博士後期課程)